

竹の内処分場周辺環境大気及び発生ガス等調査結果について

今年度を実施した、竹の内処分場内や周辺地域の環境大気調査、場内の平成15年度及び平成16年度に設置したボーリング孔観測井の発生ガス調査及び処分場からの放流水中の悪臭成分調査結果をお知らせします。

1 竹の内処分場及び周辺の環境大気調査

- (1) 試料の採取
- | | | | |
|-----|-------|----------|----------|
| 第1回 | 平成17年 | 6月30日から | 7月1日まで |
| 第2回 | 平成17年 | 9月6日から | 9月7日まで |
| 第3回 | 平成17年 | 11月17日から | 11月18日まで |
| 第4回 | 平成18年 | 1月10日から | 1月11日まで |
- (2) 調査対象地点
- 竹の内処分場内（第7工区中央付近）
処分場近接地（近接民家周辺）
対照地点1（地理的な類似地区）：大河原町内（宮城県仙南保健所屋上）
対照地点2（竹の内地区と地形及び地質の類似地区）：角田市横倉地区
- (3) 調査結果
- 上記調査地点で調査したところ、環境基準が設定されている「ベンゼン」「トリクロロエチレン」「テトラクロロエチレン」及び「ジクロロメタン」については、すべての回、すべての地点で「環境基準値」を下回っていました。
- 有害大気汚染物質について、処分場内とその他の地点の比較では、前年度調査と比較して今年度の調査では、処分場内で他の3地点より検出割合が高い傾向にありました。

2 ボーリング孔の発生ガス等調査

- (1) 試料の採取
- | | | | |
|-----|-------|---------|---------|
| 第1回 | 平成17年 | 9月7日から | 9月10日まで |
| 第2回 | 平成18年 | 1月11日から | 1月14日まで |
- (2) 調査対象地点
- 継続観測している平成15年度に設置したボーリング孔 4地点
- (3) 調査結果
- 上記調査地点で調査したところ、今年度の調査では、毎分1リットル以上の発生ガス量は計測されず、発生ガス量も減少傾向にありました。
- 各孔における発生ガス量は減少傾向にあるものの、依然孔内では臭気強度が5以上に相当する硫化水素濃度が検出されていました。

3 処分場放流水等中の悪臭成分調査

- (1) 試料の採取
- | | | |
|-----|-------|--------|
| 第1回 | 平成17年 | 6月30日 |
| 第2回 | 平成17年 | 9月6日 |
| 第3回 | 平成17年 | 11月17日 |
| 第4回 | 平成18年 | 1月10日 |

- (2) 調査対象地点 場内貯留池（１段目）への流入地点
貯留池（３段目）からの流出地点
- (3) 調査結果 悪臭防止法で水中濃度の規制値が設定されている４成分について、上記調査地点で調査したところ、いずれの回、地点でも４成分いずれも検出されませんでした。

４ ボーリング孔の発生ガス量及び主要成分調査(上記２の対象地点を除く。)

- (1) 試料の採取 平成１７年１２月１９日から１２月２１日まで
- (2) 調査対象地点 平成１６年度設置のボーリング孔観測井戸 １８地点
平成１５年度設置のボーリング孔観測井戸 １地点
- (3) 調査結果 上記１９地点について、各孔での発生ガス量及びガスの主要成分を測定したところ、ガスの発生量が測定できるレベルで認められたのは、１９地点のうち１０地点であり、発生ガス量は毎分 0.0047 ～ 5.3 リットルでした。
発生ガス中の成分は、各地点ともメタンが最も多く、パーセント単位で検出されたのはメタンの他に二酸化炭素と酸素でした。
発生ガス中の硫化水素濃度は 0.14 ～ 750ppm であり、これまで継続観測しているボーリング孔の硫化水素濃度の範囲内でした。

５ 今後の対応

これまでの検出状況等も考慮し、必要に応じてモニタリング計画の見直しも行いながら、今後も定期的な調査を行う予定です。